

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第39週 (9/23-9/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	39週	38週	37週	36週
小児科	18	17	18	16
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	27	26	26
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/23-9/29	9/16-9/22	9/9-9/15	9/2-9/8	9/16-9/22
			39週	38週	37週	36週	38週
小児科	RSウイルス感染症		14 0.78	3 0.18	17 0.94	29 1.81	131 0.99
	咽頭結膜熱		5 0.28	4 0.24	4 0.22	11 0.69	24 0.18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20 1.11	31 1.82	23 1.28	29 1.81	281 2.13
	感染性胃腸炎		51 2.83	49 2.88	67 3.72	62 3.88	318 2.41
	水痘		2 0.11	4 0.24	2 0.11	4 0.25	31 0.23
	手足口病		53 2.94	48 2.82	62 3.44	67 4.19	293 2.22
	伝染性紅斑		5 0.28	7 0.41	6 0.33	7 0.44	47 0.36
	突発性発しん		9 0.50	9 0.53	12 0.67	9 0.56	47 0.36
	ヘルパンギーナ		11 0.61	8 0.47	33 1.83	22 1.38	87 0.66
	流行性耳下腺炎	○	5 0.28	3 0.18	1 0.06	1 0.06	23 0.17
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	20 0.71	27 1.00	44 1.69	32 1.23	137 0.65
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		6 1.20	5 1.00	4 0.80	13 2.60	28 0.82
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	O抗原凝集抗体の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
				百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	60歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認	麻しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
	男性	70歳代		-	-	-	-

・第39週は、結核1件(134)、腸管出血性大腸菌感染症1件(14)、レジオネラ症1件(11)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(12)、急性脳炎1件(12)、百日咳1件(125)、麻しん1件(3)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第39週のコメント

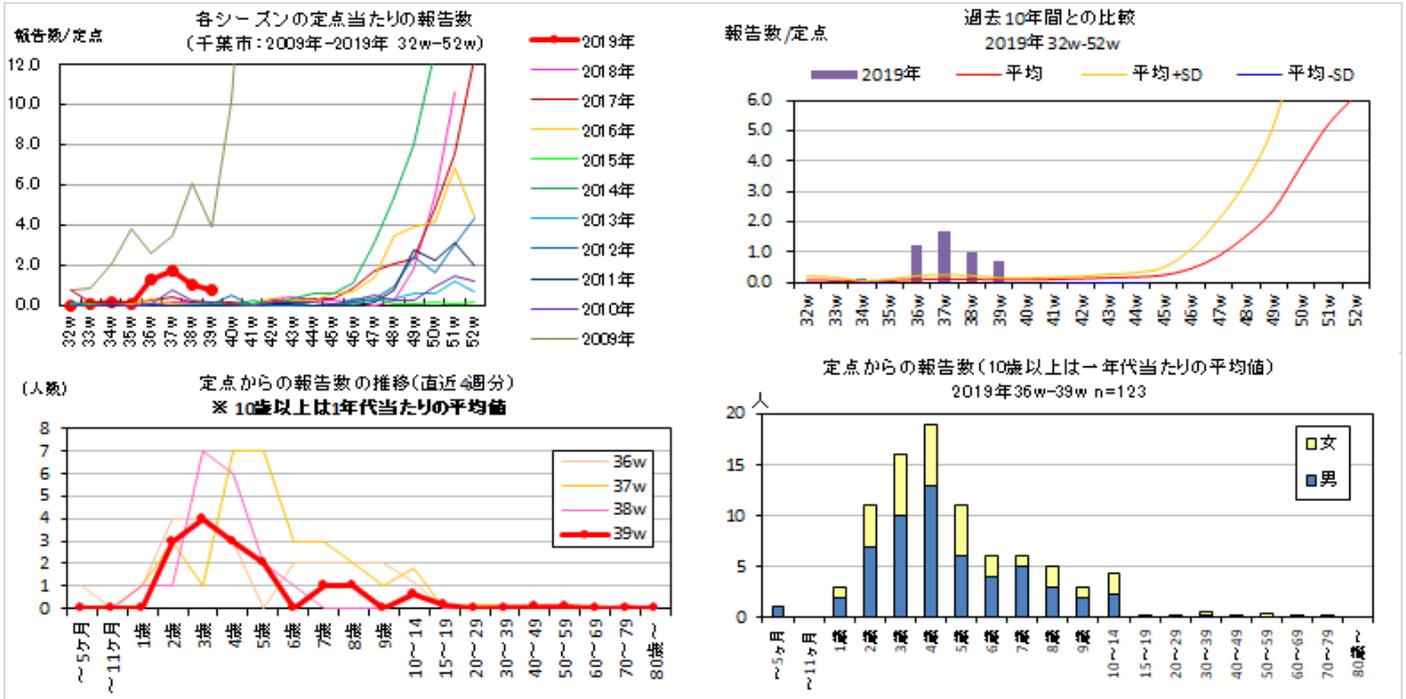
＜インフルエンザ＞前週より減少し0.71となった。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多のまま。

＜流行性耳下腺炎＞前週より増加し0.28となった。過去10年の同時期と比べると平均レベル。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第38週の定点当たりの報告数は1.16となり、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多となっています。都道府県別では沖縄県、佐賀県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.65で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第39週は前週より減少し0.71となりましたが、過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックを除いて最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区(2.2/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第39週までの累積報告数は123件で、性別では男性が58.5%(72名)、女性が41.5%(51名)となっており、年齢階級別では4歳(15.5%:19名)、3歳(13.0%:16名)、5歳(8.9%:11名)の順で多く、20歳未満は全体の84.6%、10歳未満は65.9%となっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第38週の定点当たりの報告数は0.09で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では愛媛県、福岡県、千葉県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.17で、全国レベルと比べるととても多くなっています。千葉市では年頭から過去10年の平均より低いレベルで推移していましたが、第38週から連続して増加し第39週は0.28となり、過去10年の同時期と比べると平均レベルとなりました。区別の発生状況は、若葉区(1.0/定点)で最多で、同区の3歳及び10歳代前半で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第39週までの累積報告数は74件で、性別では男性が56.8%(42名)、女性が43.2%(32名)となっており、年齢階級別では5歳(18.9%:14名)、7歳(16.2%:12名)、8歳及び10歳代前半(共に12.2%:9名)の順で多くなっています。

